

2023 年度 スポーツ評価型選抜（前期） 小論文問題

次の文章を読み、問いに答えなさい。

北京冬季五輪がきょう閉幕する。感染症対策が続く難しい環境の中で躍動した選手たちを^{たた}称えた。一方で運営の不手際や不可解な判定が後味の悪さを残した大会でもあった。

日本選手団は、前回の平昌大会の 13 個を大幅に上回る過去最多のメダルを獲得した。

スピードスケート女子の高木美帆選手は金 1 個、銀 3 個のメダルに輝いた。前回と合わせ通算 7 個のメダル獲得は五輪史に残る快挙だ。個人種目で金と銀を獲得したスキージャンプ男子、小林陵侑選手と共に日本を元気づけた。

スノーボードの男子ハーフパイプで金となった平野歩夢選手が繰り出す大技に息をのんだ人も多かったに違いない。17 歳でメダリストになった女子ビッグエアの村瀬心椛選手らの健闘も光った。

メダルに及ばなかった選手も、多くの感動を届けてくれた。

日本勢の躍進は選手自身の努力に加え、国が東京五輪の開催決定以降、競技力の強化に努めてきたことも大きい。今後も若い選手の育成に力を注いでもらいたい。

ただ、今大会で採点基準の曖昧さや微妙な判定など、熱戦に水を差す問題が随所に見られたのは残念だ。大会途中で浮上したドーピング問題も波紋を広げた。

競技スポーツは、選手たちが公平・公正に競い合うことが前提だ。国際オリンピック委員会(IOC)や各競技団体は、今回の問題について調査を尽くし、具体的な改善策を示すべきだ。

運営の課題も浮かび上がった。今大会は事実上、ワクチン接種が義務とされたが、選手村や競技会場など外部と遮断されていたはずの空間や空港で、五輪関係者の感染が多数確認された。陽性判定で欠場した有力選手も相次いだ。

屋外競技の練習や試合で、負傷者が続出したのも問題だ。硬い人工雪や異常な低温下での競技続行が関係しているとの指摘もある。今後の冬季五輪のためにも、因果関係の検証が不可欠となる。

中国の露骨な政治利用や統制も際立った。大会スローガンは「共に未来へ」だったが、ロシアなど強権的な国との五輪外交が目立ち、米欧との対立や人権問題を巡る分断を印象づけた。

選手の SNS の発信は東京大会に比べ少なかったという。自由な意思表示が当局に問題視されるのを嫌って自己規制したためか。

3 月 4 日には北京冬季パラリンピックが開幕する。選手が競技に集中し、実力を存分に発揮できる大会にする必要がある。

出典：「北京五輪閉幕 選手活躍でも残る後味の悪さ」『読売新聞』2022 年 2 月 20 日 朝刊

問 1 この文章の中で自分が大事だと思うポイントを 4 つ挙げ、それぞれについて要約しなさい。

(各 60 字以内)

問 2 未来に期待するオリンピック競技大会の姿について、あなたの意見を述べなさい。(400 字以内)

以上